指導教員が掲げたゴール

ディスカッション後の感想

所属　自然科学研究科

研究室内でのディスカッションということもあり，研究対象が似た人が集まっているため，まずSDGsゴール番号**6「安全な水とトイレを世界中に」**に該当することは共通認識であった。そこから，視野を広げるためインターネットのSDGsのページを参考にディスカッションを行った。

私は日本ユニセフ協会のサイトを参考にした。**SDGsにおける17つのゴールについては頭に入っている人も多いだろう。しかし，各々全てにターゲットがあることをご存じだろうか。私は今回，調べてみて初めて知った。**

このターゲットをもとに他の番号にも研究対象が関連するのかを話し合った。有害な物質を吸着するという点から**3「すべての人に健康と福祉を」**，インフラへの利用を考えているため**9「産業と技術革新の基盤をつくろう」**，環境親和性の高い材料を用いているという点から**11「住み続けられるまちづくりを」**や**12「つくる責任 つかう責任」**にも関わっているのではないかと，視野を広げることができた。

番号ごとの目標だけでは推し量れないものがSDGsにはあり，一見すると関わり合いがないように思われる目標でも，実は寄与しているという発見があった。

新たな発見という意味では，注意しなければならないこともあると感じた。**ある目標の解決になっている事柄でも，他の目標では逆行している可能性があるということだ。**例えば，材料の入手経路が先進国に依存してしまえば**17「パートナーシップで目標を達成しよう」**にはそぐわない。また，脱炭素社会の実現も掲げる今，輸送によるCO_2の排出も考えなければならない。

利点のみを追いかけるのではなく，多角的な視点をもって負の側面も考慮し対策を講じる必要がある。

指導教員が掲げたゴール

ディスカッション後の感想

所属　生物資源科学部

自身が携わる研究や学びは、1つのゴールだけではなく、複数のゴールに関わっていることに気づくことができた。私は主に、水環境の改善と保全の研究と学習を行っており、「いつでも、どこでも、誰もがきれいな水を使える」ことを大きな目標に活動している。その為、私は**6番の「安全な水とトイレを世界中に」**を主に目指していた。しかし、今回議論してみると、自身の研究や学習はもっと多くのゴールに関わっていることが分かった。例えば、**11番の「住み続けられるまちづくり」**である。水の改善だけでは住み続けられるわけではないが、安定的なきれいな水の供給は、そのまちの生活水準を上げ、人口増加やまちの発展につながる。他にも、汚染水の改善は健康維持にもつながるため、**3番の「すべての人に健康と福祉を」**というゴールの健康という面で関わっているという結果になった。このように、**完全に達成できなくても複数のゴールに少しずつ関与していることが分かった。**

さらに、議論をし、研究をする際の心構えについて大きな変化があった。**12番の「つくる責任、つかう責任」というゴールが、自身の研究や学習にとても関与しているのでは、という意見が議論の中であった。**この「つくる責任、つかう責任」というゴールは、“生産者も消費者も、地球の環境と人々の健康を守れるよう、責任ある行動をとろう”という小テーマが添えられている。私は、このゴールが自身の研究や学習に関わっているという考えにとても賛成的である。なぜなら、**環境保全を目的に研究をしているのに、研究過程で廃棄物や廃液で環境を汚染してしまったら本末転倒だからである。研究する際に使う薬剤や資源について、環境にやさしいか、合成後に出てくる廃棄物や廃液は環境負担がないか、などといった考慮がとても重要だと感じた。これからは、ただ研究するのではなく、つくる責任をしっかり持ちながら研究を行っていきたいと思った。**

以上のように、自身の研究、学習とSDGsに関係について議論をしてみるといろんなことが分かり、今まで考えてなかったことを考えさせられた。SDGsについてもっと知ってもらうため、また、SDGsのゴールを少しでも達成できるよう、これからも研究と勉学の勤しんでいきたいと思う。